PROFILE

こばやし・りょう／1982年9月12日埼玉県生まれ。170㌢、67㌔。与野西北小－大宮FC－武南高－駒澤大－柏レイソル(05)。ＤＦ。駒大在学中は１年次から試合に出場し多くのタイトル獲得に貢献してきた。４年次には副主将を務め、総理大臣杯３連覇を達成。前代未聞の偉業を成し遂げた。今年、柏レイソルに入団しＪリーグディビジョン１第４節でＪデビュー。持ち前の運動量で右サイドを駆け巡り、守備だけでなくロングフィードからチャンスを演出する。

(C)KASHIWA REYSOL

そうですね。たまに連絡を取って中後とは一緒に飲んだりしてます。祐輔、興(光博)とか太(陽一地)あと(大瀬良)直人(以上ロッソ熊本)はこっちに来る機会がなかなかないので、電話で話して年末に会おうっていう話はしてますね。あとは「何かくれ何かくれ」しか言わないんで、あいつらは(笑)。

―先輩の深井(正樹・鹿島)選手、巻(誠一郎・千葉)選手とはお会いすることもあるんですか。

深井さんとは時々会ったりしてるんですけど、巻さんとはなかなかないですね。「電話してきたら連れてってやるよ」って言われてるんですけど、忙しくてそういう機会もないですね。

―その深井選手、巻選手は試合にコンスタントに出ていて、小林選手もコンスタントに出ているという面では、ライバル心のようなものはありますか。

ライバル心というよりはお世話になった先輩で尊敬出来る二人なので、その二人が活躍してるのを見ると自分も頑張らなくちゃいけないという感じで、ライバル心というよりはむしろ刺激を受ける存在です。

―巻選手は日本代表にも選ばれたわけですが、小林選手はどのように思いましたか。

いきなり入ってたんで凄く驚きました(笑)。

―自分も・・・という気持ちになりましたか。

僕の場合はまだまだ入ったばっかりなので、まずはチームでずっと出れるように、そっからだと思います。ただ、巻さんがああやって青いユニフォームを着て走ってる姿を見るとやっぱり刺激を受けますね。

監督、コーチが使い続けてくれたことが大きい

―プロになって意識の変化はありますか。

食事も気を使うようになったし、睡眠も、大学の時は結構無茶してゲームばっかりやってたんですけど、今はそういうこともなくなって、体調管理には気を使うようになりました。

―大学時代と比べて成長を感じる時はありますか。

今はないですね。今は一生懸命必死にやってるだけです。プレーでこうしたいなというのはあるんですけど、成長出来たのはまだ感じないです。

―では、大学で学んだことが生きてると感じるときはありますか。

そうですね。秋田監督から教わった人間性は今も・・・。たぶんプロに行った人みんな言ってると思うんですけど、基本的な挨拶もそうだし、ファンサービスも秋田監督と出会ったからこそ出来るのかなって。ファンの人たちに支えられているので、そういう人たちとのコミュニケーションは大切にしたいし、そういう部分では大学時代に教えてもらったことが今に通じてると思います。

―逆に学ぶことはありましたか。

サッカーの面では学ぶところは大きいし、まだまだ自分の伸びる要素はあるなって感じますね。

―今のチームでお手本になっている選手はいますか。

明神(智和)選手はキャプテンとしてもサッカーの面においても人間的な面においても素晴しい人だと思います。

―まだチームに加入してから日が浅いですがその中でも印象に残っている試合はありますか。

レッズ戦ですね。うちのホームだったんですがサポーターの数はうちのアウェーで(笑)。なかなか勝てなかった時で、ホット6の時に徐々に良くなって、レッズに3―0で勝てたっていう大きな喜びでした。自分自身レッズは地元なので、レッズとアルディージャだけには負けたくないと思っていたので。自分が出た試合でレッズに3―0で勝てたのは大きかったと思います。

―J1のチームとは一通り対戦したわけですが、その中で一番嫌なチーム、選手はいましたか。

グランパスの藤田(俊哉)選手が凄く嫌でした。相手選手のここに来られたら嫌だなっていうスペースに走り込んできて。あの歳で運動量もあるし、頭を使って嫌なとこ嫌なとこにきたので藤田選手は嫌でした。

―チームとしては？

グランパスですね。4―0で負けたし、あそこまでの完敗はなかったです。あとはジェフが嫌ですね。もう今年5、6回対戦してるんですよ。だから、お互い分かってるし嫌で嫌で「またジェフとかよ」みたいな感じでみんなも言ってます。

―ヴェルディ戦ではお兄さんと対戦しましたが特に意識しましたか。

全くしなかったです。あの試合1―0でこっちが負けてたので何とかして同点にしたいという気持ちで途中から入って。自分自身ががむしゃらにやることだけ考えてたので、兄の存在は全然意識してなかったですね。

―小林選手は試合に出始めるのも早い方だったと思うのですが、ご自身のプランとしてはここまで順調にきていますか。

順調にきすぎてるかなって思います。現実的に考えればまさか一年目からここまで試合に出れるとは思わなかったし。もちろん選手としては全部の試合に出ることは一つの目標で、そのくらいの気持ちでやっていかないといけないと思うんですけど。でもやっぱりそこまで甘くないと思ったし、25節の半分くらい出てるんですが充実してるなって感じます。

―ポジションは大学時代は右サイドバックでプレーされていて、今は右サイドハーフでの出場が多いですが。

3バックのサイドをやったのは初めてだったので戸惑いはありました。でもそこは監督、コーチに助けられて長い目で見てくれたのが大きかったですね。だから、反省を次に生かすことが出来たし。1試合やって駄目だったから次の人使おうって思われていたらたぶんもう終わってたと思います。そういった意味では使い続けてくれたことが本当に大きいです。

―では今後の目標を教えてください。

目標はチームでずっと出続けることかな。近いところでの目標ですね。あとは、その中で自分自身の質を高めていくことが大事になってくると思います。そこら辺は課題としてやっていきたいです。

(C)KASHIWA REYSOL

KOBAYASHI RYO